

【PRESS RELEASE】

報道関係者各位

2019年5月24日

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

一般社団法人 日本CATV技術協会

第31回 ケーブルテレビ功労者表彰の受賞者決定について

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟（東京都中央区京橋 1-12-5、理事長：吉崎正弘）及び一般社団法人 日本CATV技術協会（東京都新宿区新宿 6-28-8、理事長：山口正裕）（以下「2団体」という。）では、平成元年の「ケーブルテレビの日」（6月16日）の創設を記念して、ケーブルテレビの普及・発展に努め、その功績が顕著な個人又は団体に対し、功労者表彰を行っています。

今般、第31回功労者表彰について、さる5月9日（木）に、総務省及び2団体により構成される選考委員会が開催され被表彰者の推薦がなされ、各団体で審議の結果、個人6名を表彰することに決定しました。受賞者一覧と贈賞式は下記の通りです。

記

1 第31回ケーブルテレビ功労者表彰の受賞者一覧（敬称略）

（1）一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟 推薦（4名）

- ・ 齋藤 晴太郎 齋藤総合法律事務所 代表
- ・ 田村 欣也 株式会社 ZTV 代表取締役副社長
- ・ 宮内 隆 株式会社愛媛CATV 代表取締役社長
- ・ 和食 暁 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 前常務理事

（2）一般社団法人 日本CATV技術協会 推薦（2名）

- ・ 野田 勉 株式会社日立製作所 元・研究所主任研究員
一般社団法人日本CATV技術協会 参与
- ・ 川島 一郎 パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株)
STBネットワークビジネスユニット 技術総括
一般社団法人日本CATV技術協会 副理事長

2 贈賞式

贈賞式は、「ケーブルコンベンション2019」の関連行事として、次の通り執り行われます。

<「第31回 ケーブルテレビ功労者表彰」贈賞式>

- 日時 2019年6月19日(水) 12:00～12:20 (予定)
- 場所 東京国際フォーラム ホールB5

3 添付資料

資料 「第31回ケーブルテレビ功労者表彰」受賞者の功績概要

以上

～本件に関するお問合せは下記までお願いいたします～

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟
尾崎 TEL : 03-3566-8200

一般社団法人 日本CATV技術協会
小松田 TEL : 03-5273-4671

「第31回ケーブルテレビ功労者表彰」受賞者の功績概要

1 一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟関係

氏名	さいとう せいたろう 齋藤 晴太郎 (71歳)	齋藤総合法律事務所 代表
<p>【功績概要】</p> <p>氏は、2001年6月から日本ケーブルテレビ連盟の理事及び法律顧問を現在まで約18年間に亘り務めている。</p> <p>その間、不祥事事件の法律顧問として終結までの諸問題の解決に奔走し、卓越した知見、専門能力、経験を遺憾なく発揮した。又、業界全体に関わる大きな課題（違法チューナー問題、著作権問題、区域外再送信問題等）の解決にも的確・適切に助言、措置を行い、更には連盟の組織運営および会員社の事業上の課題についても日常的に助言、措置を行い、連盟活動と会員の事業活動の進展に大きく貢献している。</p>		
<p>【略歴】</p> <p>2001年6月 社団法人日本ケーブルテレビ連盟 理事 法律顧問</p> <p>2012年10月 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 理事 法律顧問 (現任)</p>		

氏名	たむら きんや 田村 欣也 (59歳)	株式会社 ZTV 代表取締役副社長
<p>【功績概要】</p> <p>氏は、2000年よりケーブルテレビ事業に携わり三重、滋賀、和歌山3県に広く事業を展開し地域に根差したケーブルテレビの普及発展に努めた。</p> <p>東海支部副支部長を2期(4年)務めた後、2015年6月から連盟本部理事・東海支部長を1期(2年)務めた。又、無線利活用委員会委員長を2期(4年)務め、無線事業が今後の業界戦略の最重要課題との認識の下、無線利活用戦略の方針整理を実施し、MVNOや地域BWAの普及促進、更には将来を見据えた5G、IoTの取組を主導している。更に、三重県ケーブルテレビ協議会会長を2期4年務め地域発展にも貢献している。</p>		
<p>【略歴】</p> <p>2000年8月 (株)ZTV 取締役 就任</p> <p>2009年5月 代表取締役副社長 就任 (現任)</p> <p>2011年6月～2015年5月 日本ケーブルテレビ連盟東海支部副支部長</p> <p>2015年6月～2017年5月 (一社)日本ケーブルテレビ連盟理事・東海支部長</p> <p>2015年6月～2019年5月 (一社)日本ケーブルテレビ連盟無線利活用委員会委員長</p> <p>2011年6月～2015年5月 三重県ケーブルテレビ協議会会長</p>		

氏名	みやうち たかし 宮内 隆 (58歳)	株式会社 愛媛CATV 代表取締役社長
<p>【功績概要】</p> <p>氏は、先行事業者として4Kコミチャン、ケーブルモバイル、地域BWA等を開始すると共に、業界内に積極的にデータ公開し普及促進を図った。連盟本部では理事・四国支部長を4年務め、更に通信・放送制度委員会は副委員長、委員長を通算で5年半務めている。</p> <p>安全安心な情報通信社会実現の為、サイバーセキュリティ対策促進、重要インフラ活動の普及、BCP策定支援など業界のネットワークの信頼性向上に向けた取組みを強力に牽引し大きく貢献した。</p> <p>又、日本ケーブルラボやテレコムサービス協会の理事として各団体との交流を促進し相乗効果の産出や業界の認知向上に貢献した。</p>		
<p>【略歴】</p> <p>2006年4月 株愛媛CATV入社</p> <p>2006年6月 取締役 就任</p> <p>2013年6月 代表取締役社長 就任 (現任)</p> <p>2015年6月～ (現在) (一社) 日本ケーブルテレビ連盟理事・四国支部長</p> <p>2013年10月～2015年5月 (一社) 日本ケーブルテレビ連盟通信・放送制度委員会副委員長</p> <p>2015年6月～ (現在) (一社) 日本ケーブルテレビ連盟通信・放送制度委員会委員長</p>		

氏名	わじき さとる 和食 暁 (63歳)	一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 前常務理事
<p>【功績概要】</p> <p>氏は、2012年6月から日本ケーブルテレビ連盟の常務理事を6年間務め、卓越した知見や専門能力・業務経験を遺憾なく発揮し業界の技術基盤の確立に尽力した。</p> <p>特に、伝送路の高度化、4K自主放送用CAS選定とACAS方式利用スキーム整備、新4K8K衛星放送の再放送やBS右旋帯域再編など、業界全般にわたる諸問題の解決に尽力し、業界の健全な発展に多大な貢献をした。</p>		
<p>【略歴】</p> <p>1979年4月 日本放送協会 入局</p> <p>2012年6月 社団法人日本ケーブルテレビ連盟常務理事 就任</p> <p>2012年10月～2018年6月 (一社) 日本ケーブルテレビ連盟常務理事</p> <p>2013年3月～2018年6月 (一社) 日本CATV技術協会理事</p>		

2 一般社団法人 日本CATV技術協会関係

氏名	のだ つとむ 野田 勉 (71歳)	株式会社日立製作所 元・研究所主任研究員 一般社団法人 日本CATV技術協会 参与
<p>【功績概要】</p> <p>1996年に協会は規格・標準化委員会を発足させたが、氏は発足時から同委員会の委員として、限定受信やSTBのワーキングの主査を務めるなど活躍、デジタルケーブルテレビの規格・標準化の制定に寄与した。</p> <p>2006年には、情報通信審議会情報通信分科会ケーブルテレビ委員会専門委員も務めている。</p> <p>2011年の新資格制度開始時から「CATVエキスパート技術者テキスト」の編集に携わっており、2012年からは、全国技術講習会の講師を務めるなど、人材育成に貢献している。また、2016年からは、ケーブルテレビに使用する機器の性能評価を行う「妨害評価試験確認会議」の主査にも就任している。</p> <p>以上のとおり、氏は、デジタルケーブルテレビの技術基準の制定や、テキスト編集委員、講習会講師を務めるなど、20年以上の長きにわたり活躍しており、ケーブル業界の発展に大きく貢献している。</p>		
<p>【略歴】</p> <p>1972年 4月 株式会社日立製作所 入社</p> <p>1995年 11月 大阪大学より、博士（工学）を授与される。 論文名称：「デジタル音声信号の映像搬送波への直交多重に関する研究」</p> <p>2008年 3月 日立製作所 退職（コンシューマエレクトロニクス研究所 主任研究員）</p> <p>2003年 6月 日本ケーブルテレビ連盟 日本ケーブルラボ 部会担当部長</p> <p>2010年 1月 日本ケーブルラボ 主任研究員</p> <p>2015年 10月 日本ケーブルラボ 退職</p>		

氏名	かわしま いちろう 川島 一郎 (59歳)	パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株) STBネットワークビジネスユニット技術総括 一般社団法人日本CATV技術協会 副理事長
<p>【功績概要】</p> <p>1996年、日本CATV技術協会は規格・標準化委員会を発足、氏は発足時から同委員会の下で活動するワーキンググループのメンバーとして携わった。2010年からは、同委員会幹事に、2012年からは、同委員会委員に就任、現在に至っている。その間に、多重化装置やSTBなどの規格・標準化の検討を行った。2010年からは、デジタル放送ワーキンググループの主査を務めるなど、デジタルケーブルテレビの規格・標準化に大きく寄与した。</p> <p>2011年6月から協会理事、2012年から副理事長として、その間の2015年から2018年までは、技術調査研究委員会委員長、2018年からは技術者育成委員会委員長を務めている。</p> <p>氏は20年以上の長きにわたり、デジタルケーブルテレビの規格・標準化に携わり、また、協会の理事・副理事長としては、技術動向の調査研究や技術者育成に先頭に立って取り組むなど、ケーブルテレビ業界および協会の発展に大きく貢献している。</p>		
<p>【略歴】</p> <p>1983年4月 松下電器産業株式会社 入社</p> <p>2010年6月 同 AVCネットワークス社 CATVビジネスユニット 企画グループ グループマネージャー</p> <p>2016年4月 パナソニック(株) AVCネットワークス社 STBネットワークビジネスユニット 技術総括(兼)開発部部长</p> <p>2017年4月 パナソニック システムソリューションズジャパン(株) STBネットワークビジネスユニット 技術総括(兼)システム技術部部长</p>		